



砂州に多く見られるすり鉢状の巣穴（直径 50cm 位）



砂質地点で多く見られるすり鉢状の巣穴（直径 30cm 位）



ゴカイの棲管

ゴカイの仲間と思われる巣穴

干潟は、一見すると、何も生き物がいない、平坦（^{へいたん}フラット）な環境のように見える。干潟環境は、常に海中になったり、太陽が降り注ぐ陸上となったりと、環境変化が著（^{いちじる}）しい場所であり、生物にとっては非常に過酷（^{かこく}）な環境である。しかし、じっくりと観察すると、そこには非常に多くの生き物たちがすんでいる。陸の上と同じように、非常に小さな生き物から大きな生き物まで、種々の生き物たちが互いに関連しあいながら生きており、干潟では干潟ならではの生態系（^{せいたいけい}）が築かれている。

泡瀬干潟は、大潮時など潮が大きく引くと、砂州（^{さす}）とよばれる砂浜や広大な砂質干潟が出現する。この砂州や砂質干潟を散策すると、あちらこちらに大小様々なすり鉢のような形の穴が開いている。その穴から少し離れた地面の上には、野球のピッチャーマウンドのように周囲とは違って盛り上がっているところがある。この穴の正体は、ゴカイの仲間の巣である。ゴカイは、釣り餌になる生き物である。このすり鉢状の形の穴は、ゴカイの口のある側であり、砂の中や表面にある有機物を海水とともに吸い取って、ピッチャーマウンドのように盛り上がっているところから、いらない海水とともに排泄している。このすり鉢状の穴を静かに掘ると、木の枝のような管状の物体が現れるが、それはゴカイが作った棲管（^{せいかん}）と呼ばれる家であり、その中を移動して生活している。非常に目立たない生き物ではあるが、ゴカイなどの生き物が干潟に穴を掘って生活することで、地中深くに酸素がいきわたったり、表面や地中の有機物などをエサとして取り込むことで、干潟をきれいに保つ重要な役割を果たしている生きものの一つである。